

長崎高教組新聞

第60次長崎高教組・長崎私教連教育研究集会

発行
〒850-0013 長崎市中央2丁目2番5号 長崎高教組会館 長崎県高等学校教職員組合
☎ (095)-827-5882
FAX (095)-826-2976
編集責任者 大場雅信
購読料 一部10円は組合費を含む
メールアドレス naga-kks@fsinet.or.jp

「人格の完成」にふさわしい学力形成のために「学びの授業」を探ろう！

11月22日・23日、第60次長崎高教組・長崎私教連教育研究集会を諫早市高城会館で開催しました。参加者は1日目57人、2日目48人でした。

お互いに学び合う中で、新自由主義的教育改革の対抗軸が見えてくる

第1日目の全体会で、高教組大場委員長が挨拶に立ち「この教研で学んだことを職場に持ち帰り、高教組の教育運動を大きく広げよう」と訴えました。また、私教連塩塚委員長も「長崎高教

組と長崎私教連の連帯を深めよう」と述べました。基調報告を行いました。その後、寺田教文部長が



▲全体会で基調報告を聞く参加者

その中で、「私たち教職員は、いま『教育』とは何なのかの根本的な問いに向き合っている。教育の目的は、憲法で明らかにするような、人格の完成にある。しかし、国連子ども委員会が3度にわたつ

等学校の不登校生徒数は1.7%、高校での中途退学者は12%に達している。この市場原理にもとづく新自由主義的教育改革の対抗軸をさちんと示さなければならぬ。新自由主義的教育改革が何を求めているのかをはっきりさせ、どうしたいのかを一緒に考えることが重要だ。教研に参加し、お互いに学び合う中でどうしたらいいのかを明らかにできると思

藤波心さんのトークイベント 出てきたら日本の未来も明るい

基調提案の後、特別行事「高校生タレント藤波心さんを招いてのトークイベント」を開催しました。「トークイベント」は寺田教文部長との対談形式で実施されました。藤波心さんは、兵庫県尾道市出身のタレント活動を行っていることや自らのブログで脱原発を発信し思わぬ反響があったことなどを話しました。その中で特に、「脱原発、いじめ問題、学校」については「原発問題はいのちの問題」という自身の考えや「原発事故で発生した放射能の危険性が広がっていることを学校では是非、教

子どもを学習する主体と位置づけていないことが大きな問題であり、このことが子ども・父母・教職員に大きな痛みを与えている。全国学力テストの結果の公表や改定学習指導要領の中での授業時間の確保が強調される中で、学校は子どもたちにとって窮屈な場になってしまっている。このことは長崎県での生徒の状況にも強く表れており、県下の小学校・中学校・高

第2日目 分科会開催

第2日目は、教科分科会（7分科会）、事務・現業分科会の計8分科会が開催されました。討議の内容が報告された分科会がありましたので、その分科会での討議内容と各分科会の概要をお知らせします。

国語教育



上・右 いずれも国語分科会

国語教育分科会は、参加者は5人でした。現場での実践報告が3本（諫早定時「百人一首」、島原工業「山月記導入プリント」、鳴滝定時「映像教材」長崎工業「国語表現教材」、全国教育のつどい報告が1本、計4本のレポート提出され、それぞれのレポートに対して研究・討議を行いました。

「百人一首」は、諫早高校定時の文化祭で国語科で制作した「百人一首」、生徒80人、職員16人にプラス、計百人が一首ずつ短歌を詠んだ冊子の紹介。「表現と生徒の実態」をテーマに討議が行われました。



上：藤波心さんのトークイベント
左：会場からのリクエストに応えて「故郷」を歌う藤波さん

「映像教材」は、映画「男はつらいよ」を教材として、生徒に言語化させていく試み。映像教材を扱う魅力と困難さというわけ情報量の多さをどう落とし込めるかが話題となりました。

次年度の教研で、「羅生門」「指」の各学校での実践を持ちよること、4月に分科宛に発信することが確認されました。



理科教育

理科教育分科会は、参加者9人。レポートは5本(国見「科学と人間生活」で光と虫めがねをやってみた)、長崎工業定時「子どもとラジオクラブを応援して」、鳴滝夜間「空から見た多良山系」、西陵「自作教具の紹介」、鳴滝通信「全国教育のつどい」報告でした。

「光と虫めがね」は、仮説実験授業の授業書「光と虫めがね」を、新科目科学と人間生活で高校1年生を対象に実施したレポート。従来の授業のように光ビームを使って反射・屈折などの法則を教えるのではなく、虫めがねや凹面鏡を使って普通の景色から光がどのように見えることに気づかせるねらいがあります。模擬授業の形式で、理科教育分科会の参加者も体験しました。参加者は、楽しみながら科学の法則を体験することが出来ました。

「子どもと科学クラブを応援して」は、長崎科学館で中学生を対象に実施している子どもラジオクラブの実践。講師は元教師や無線技士など。活動の内容はガレマニウムラジオ、ICラジオ、モールス通信機などの作成。科学館が市営から第三セクターになり無料で実施することが難しくなっているそうです。



「子どもと科学クラブを応援して」の実践の様子

「空から見た多良山系」は、市販の国土地理院の地図データを使って、立体地図の画像を作成して授業で活用している報告でした。地元の地図や画像など身近な地形や地層など親しみやすくする工夫がなされています。

「自作教具の紹介」は、授業で使っている自作教具の紹介でした。力のモーメントの腕を説明する教材は特に重宝して使っているそうです。単振動、ドップラー効果を説明する教具、エクセルのグラフ機能を使ったホロスベックシートのプログラムも実演されました。

「全国教育のつどい報告」は、教育のつどいの物理・化学分科会のレポート紹介でした。斜めで釣り合う天秤や鉛筆燃料電池などおもしろい発想発見などがある全国の実践に触れる機会を多くの教員が持つてほしいということが話されました。

総括討論では、実験や実習が少なくなっている現状や新教育課程の実施状況の課題が討議されました。

保健体育

保健体育分科会は、参加者3人。レポートは、大村城南「ダンス」でした。「ダンス」は、大村城南の体育祭での集団演技の報告でした。討議の中でも、参加者の実践が報告されました。「小浜高校で、女性の体育教員がいないため、男性の教員がフラダンスの指導をしている」という報告が非常に面白く、来年も続けて

外国語教育は、参加者5人。レポートは3本(大村城南「映画ナルニア物語を使った指導」、鳴滝夜間「夜間定時制における英語授業実践」、鳴滝通信「文法の要素をイメージする」)でした。教育のつどい2013への推薦レポートが、鳴滝夜間「夜間定時制における英語授業実践」と和

社会科教育は、参加者9人。レポートは3本(北陽台「知っておきたい労働法」、西陵「大学入試問題からの一考察」、小浜「生徒にとつての世界史授業は」)でした。教育のつどい2013への推薦レポートは見送られていました。次年度の討議の柱が①社会科にとつての基礎・基本は②生徒にとつてわかるための「現代」を教えるための

材料の紹介」に決定しました。ほしい「フラダンスの指導報告はとても貴重で、参考になりました」との感想が寄せられています。



「現代」を教えるための討議の様子

数学科教育

数学科教育分科会は、参加者9人。レポートは6本(島原農業「ちよつとした工夫」、鳴滝夜間「定時制高校における数学の指導実践」、鳴滝夜間「情報リテラシーを鍛える」、島原「折り紙による角の3等分線の考察」、波佐見「既約ピタゴラス数を求め数表化へ」、鶴洋「対数の導入」)でした。教育のつどい2013への推薦レポートは、波佐見「既約ピタゴラス数を求め数表化へ」に決定しました。

12月7日、高教組は、8月から教育全国署名と同時にとりくんできた長崎県議会への請願署名3261筆を添えて、「ゆき」といった教育を求め「県議会への請願を行いました。紹介議員は、共産党堀江議員でした。県議会文教委員会への

請願の中では、高教組前田執行委員が少人数学級必要性、教育費の父母負担の軽減、奨学金制度の拡充などゆきとといった教育を求めるといった説明を行いました。これに対して、文教委員会の吉村委員が質問に立ち、「高等学校における35人以下の学級について文科省はどのように見解か」、「実質的に35人以下になっている学級数の割合はどれく

次年度の討議の柱は①生徒の興味・関心を引く自主教材の編成②低学力の生徒をどう指導していくか③受験体制の中での数学科教育のあり方④教育の実践の持ちよつて交流する、となりました。

芸術教育分科会は、参加者3人でした。今年度は久しぶりに参加者が集まり、持ち込んだ資料をもとに芸術教育についての討議が行われました。次年度の討議の柱として、①少人数グループに対応した授業の構成について②生徒の多様化に対応する授業のあり方について、を決めました。



▲請願趣旨を説明する前田執行委員 右隣が紹介議員の堀江議員

「ゆき」といった教育を求める「県議会請願」 請願の自身には一定の理解を示すものの、財政面で不採択!

「ゆき」といった教育を求め、また、「35人学級を全体の50%にする場合どのくらいの予算が必要か」など、県教委の回答を求めました。これに対して県教委は、「文科省は高校における35人以下学級については何も示していない」、「1学年3学級の学校は県内17校。そのうち35人以下の学級は84.3%。残りを35人以下学級にする場合、8学級増となり、教員を13名増やさなければならず、その予算は年間1億850万円となる」などと回答しました。また、小林議員は「請願されている内容はいいことが書かれている。この中で、一つでも前進させることを考えるべきではないのか。」



「ゆき」といった教育を求める「県議会請願」の討議の様子

示したものの、討論の中では、「財政面を考え、今の段階では不採択と言わざるを得ない」などの意見が多数を占めました。採決では、賛成は堀江議員のみで、反対多数により請願は今年度も不採択になりました。



「ゆき」といった教育を求める「県議会請願」の討議の様子